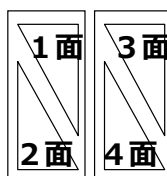


# コロノテスト4 CMCC

## ◆◆◆ 特長 ◆◆◆

1. 簡単な操作で、総細菌数の測定に使用できます。
2. グラム陽性菌、グラム陰性菌、真菌の鑑別に使用できます。
3. 多数の検体を簡単な操作で培養でき、短時間で判定することができます。
4. 二次培養が可能で、同定、薬剤感受性試験などに進めることができます。



## ◆培地の特長

### 第1面 CLED培地

この培地にはほとんどの尿中細菌が発育します。

ラクトース醗酵性細菌は、黄色のコロニーを作り培地自体は黄変します。

ラクトース非醗酵性細菌は、露滴色のコロニーを作り、また、*Proteus*の遊走を阻止します。

### 第2面 変法MacConkey培地

この培地はグラム陰性桿菌の選択培地です。抗真菌剤により真菌の発育も阻止します。

ラクトース醗酵性細菌はピンク色～赤色のコロニーを作り、ラクトース非醗酵性細菌は露滴色のコロニーを作ります。

### 第3面 変法Columbia CNA培地

この培地はグラム陽性球菌の選択培地です。抗真菌剤により真菌の発育も阻止します。

カーボンブラックを加えて、半透明、不透明のコロニーを鑑別しやすい様に改良してあります。

### 第4面 CT培地

この培地は真菌の選択培地です。

*Candida albicans* は緑色～淡褐色のコロニーを作ります。

*Candida glabrata* は暗褐色～黒色のコロニーを作り、判別が容易です。

## ◆貯法

○遮光して2～8℃に保存、凍結させないようにして下さい。

○有効期間……9カ月間 有効期限をケースに表示しています。

## ◆包装

CDR312-K3	1検体用×10管入
CDR312-78	1検体用×48管入

## ◆参考 (臨床検査法提要 改訂第33版より)

$10^3$ 個/mL以下 ……汚染尿

$10^4$ 個/mL前後 ……感染尿の疑いが大、  
ときに汚染尿の疑い (要再検)

$10^5$ 個/mL以上 ……感染尿

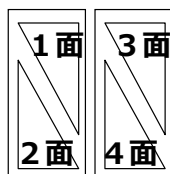
◆**使用法**

1. 尿の細菌学的検査法の常法に従い、中間尿を採取します。培養は、採尿後すみやかに実施することが望ましく、信頼できる結果が得られます。
2. 培地面を傷つけないようにスライドをケースから引き出し、被検尿に培地部分を約1～2秒浸し引き上げてから余分な尿を切りスライドをケースにもどします。尿が少ない場合は、滅菌した駒ごめピペットで培地表面にかけるか、採尿コップを斜めにして培地表面にふれるようにして浸して下さい。
3. 患者名など必要事項を添付のラベルに記入し、ケース側面に貼るか、又はケース側面にマジックペンで必要事項を記入します。
4. 培養は35℃で18～24時間培養します。発育が悪い場合は、さらに一日培養します。  
33～37℃では、発育能にそれほどの差はなく、孵卵器のない施設では室温で培養することも止むを得ませんが、集落の形成に時間がかかるので2～3日の培養が必要です。  
冬の夜間時に室温が10℃以下に下がるときには、何らかの方法を考えなければなりません。
5. 培養後、培地上のコロニー数をコロノテスト4CMCC判定表と比較し菌数を算定します。

◇◆◇ **培養例** ◇◆◇  
(35℃)

24時間

48時間



- 1面 : *E.coli*  
ATCC 25922  
2面 : *E.coli*  
ATCC 25922  
3面 : *S.aureus*  
ATCC 25923  
4面 : *C.albicans*  
ATCC 14053

10<sup>3</sup>個/mL

10<sup>4</sup>個/mL

10<sup>5</sup>個/mL

10<sup>6</sup>個/mL

